

I 2024年度 浦佐地域づくり協議会の主な実施事業について

2025.4

はじめに

浦佐地域のコミュニティ活性化事業は、浦佐地区センターに「浦佐地域づくり協議会」を設け、「雪国おくにじまん会館」の管理のほか、様々な事業を行っています。

地区センターと協議会の主な役割は、①施設全体の日常的な維持管理 ②協議会事務及びイベントなど自主事業の実施 ③各行政区・市との連携 ④市報等行政区あて文書配達 ⑤協議会が認める公共的団体等支援活動と事務局事務 などがあります。また、独自のプロジェクト事業の企画、運営・実施するほか、地域の活性化に有効と思われる事業などとの連携を進めます。

雪国おくにじまん会館 1階の店舗は残念ながら経営不振が続いたことから 2024年7月以降休止状態となっています。再開に向けた取り組みは機構を中心に行っているところです。(25年4月から一部再開予定)



(浦佐地域づくり協議会は、市民・行政区と行政の中間組織として 2008年4月に設立されました)

浦佐地区の概要

浦佐地区は15行政区で人口4,383人(▼84)、世帯数1,867(10)となっている。(3月末)地区の中央を魚野川とJR、国道17号が南北に通り、地域のランドマークとなる新幹線駅、魚沼基幹病院、八色の森公園、国際情報高校などがあって、旧大和町4地区の中心地域となっていました。地区の基幹産業は農業が中心を担って良質なコシヒカリ、八色スイカ、きのこ等が生産されています。地区全体では世帯数の微増はあるものの人口は減少傾向が年々強まり、少子・高齢化と中心地への人口集中が進み、バランスの取れた発展など大きな課題になると思われます。

また近い将来全面開通が見込まれる「国道浦佐バイパス」、「都市計画変更」後の動き、そして「ゆきぐに大和診療所」の新築移転などの一連の動きなど…地域にとって重要な一年となりましたが、縮小しようとする地域社会に向かって充実した地域の将来となるよう積極的な関わりが必要だと思います。

公共施設の域外移転などが続き、従来からのまちづくりの柱となっていた施策が不透明になりつつあるなか、地域の目線から積極的なまちづくり・地域づくりへの参加が求められていると感じています。

1 地域活動拠点事業 (繰越金を含む市からの委託事業ほか収入済額 3,129千円)

浦佐地域づくり協議会の事務局は雪国おくにじまん会館の2階にあって、地域の活動拠点となっています。事務長ほか3名、計4名の事務員などが現在常駐(月～金曜日 8:30～17:00)しています。また「浦佐公民館」の事務室として、不定期ですが館長が同室で事務を行っています。

- ・「雪国おくにじまん会館」（浦佐地区センター）の運営と管理を行っています。
- ・毎月 2 回、南魚沼市から発行される市報・お知らせ文書等、各行政区へ配達します。（2024 年度から原則月 1 回 1 日発送となりましたが、土・日曜など休日の場合には前日配達となります。市報の発行は月 1 回となりましたが様々な地域情報等の連続性などもあり、当面は 15 日 配送も残ると思われ情報の伝達に努めます。）
- ・浦佐地区センターの開館時間は、年末年始及び、土日曜、祝日を除く月曜から金曜日の 9 時 から 17 時までとなっています。（会館の利用は予約により、休日等も含め全日利用可能）
- ・地域での困り事や地域の課題・問題、コミュニティ活動に関する相談事について窓口を開いています。また地域課題等について、県市への窓口として“要望書”的りまとめも行います。
- ・カラーコピー機の利用、芝刈機、小型除雪機、テント類、折り畳み椅子・テーブル、PA・OA 機器 等の備品類・イベント用品などの貸出も可能です。ご相談ください。

（事務長費、施設管理費ほか支出額 2,818 千円）

2 地域活性化支援事業（繰越金を含む市から受ける交付金事業ほか収入済額 4,755 千円）

地域活性化支援事業は市から交付金を受け、コミュニティの醸成また地域の活性化などに向けた活動を行なう事業で、「基礎事業」と「提案事業」からなっています。事業費は南魚沼市から同名の交付金で賄われていますが、提案事業では独自の収入源を求めるなかで開催するイベントもあります。

（基礎事業、提案事業費など支出済額 3,854 千円）

○ 基礎予算事業（事業費の支出額 1,168 千円）

基礎事業は、地域で管理する道路水路の外、市道などの簡便な補修工事など、地域の視点・目線から実施できる事業で、ここ数年、街路灯・防犯灯などの LED 化を計画的に進めるほか、道路施設などの小さな改修工事や災害対応など、市と連携するなかで進めています。

今年度は地域の公共事業やまちづくりを考えるうえで重要ないくつかの動きがありました。都市計画変更実施、南魚沼市景観計画の策定、そして「ゆきぐに大和診療所」など包括医療センター新築移転の検討。来年度も地域にとって重要な 1 年になると考えます。

24 年度も大きな災害等の発生がなく、比較的平穏な一年でしたが、それでも夏季の異常気象による渇水など、対応が必要となった場合に備えていきたいと考えています。



○ 提案予算事業（事業費の支出額 2,685 千円）

提案事業の目的は、地域で行われている伝統行事や活性化イベントの支援のほか、地域全体を巻き込むような活性化イベントの開催、また地域コミュニティを醸成しようとする事業です。

各種共催イベント事業、浦佐公民館・各種団体・環境活動への事業費補助、フットパスなど小

規模な観光交流事業を進めてきました。各地では大型イベントも開催されるようになり、訪日外国人旅行消費額は2024年も過去最高となったそうです。



こうした状況にあって、中止することなく続けてきた地域イベントですが、社会状況や価値観の変化などから、発展・継続し続けられる地域イベントへとその姿・内容を深化させていく時期に差し掛かっています。

また、一社法人浦佐まちづくり機構が運営する会館1階の店舗ですが、安定した経営とすることが出来ず、昨年6月末で休止となっています。

現在、再開に向けた取り組みを機構が中心となって行っているところです。地域の拠り所としての利活用を進めることで、会館の拠点性をこれまで以上に高め、地域内外の交流拡大と関係人口の創出を図りたいと考えています。

3 各種プロジェクト事業（概要紹介）

○ びしゃもん通り賑わい事業

空洞化しつつある浦佐西山地域の活性化を目的に、商工会、料飲店組合の皆さんを中心に地域の連続した新しいお祭りとして創設し、ローコストで省力化に工夫を凝らす中で“お祭りの日常化”を目指してきたところです。準備や当日の運営など全員で汗を流し、スタッフも含め全員で“祭りを楽しむスタイル”を目指し進めてきました。

本年は地域住民の負担に配慮する中、毘沙門通りの通行止めを実施せずに会場を北側駐車場に移し「小さな祭り」を開催しました。

「小さな祭り」は5、10月の2回（基本第4日曜日）を計画・開催し、「小さな縁日」は5、6、9、11月の4回計画・開催ができました。「縁日」様式のお祭りは天候に恵まれず、前年の人出を大きく下回ることとなりました。

そして7月の「生ビール&鮎まつり」も規模を縮小せず、フルスペックでの開催を行いました。開店後は生憎の天候となってしまいましたが、最後の片付けまでスタッフみんなで楽しむことが出来たと思います。

課題としてスタッフの高齢化や人手不足など、次年度以降の祭りの運営の方法を検討する必要があるようです。お祭り自体、地域が発展し続けられるような新たな形式へ変化しなければならない時期へ来ているのではないかと考えられます。



24年の賑わい事業まとめ

- 5月3日 「小さな縁日」開催 会場：会館周辺施設内 移動販売車2台 150人
5月26日 「小さな祭り」開催 会場：会館北側駐車場 軽トラ市+芸能ステージ 380人
6月23日 「小さな縁日」開催 会場：会館周辺施設内 移動販売車5台 60人
7月28日 「生ビール&鮎まつり」 会場：びしゃもん通り 軽トラ市+芸能ステージ 3,600人
9月22日 「小さな縁日」は雨天が予想されたことから前日に中止の連絡をとる
10月27日 「小さな祭り」開催 会場：会館北側駐車場 軽トラ市+芸能ステージ 480人
11月3日 「小さな縁日」開催 会場：会館周辺施設内 移動販売車4台 200人

計4,870人の人出となって、昨年比12.3%減になりました。

配置を工夫しながら2回の小さな祭りを開催



3回の縁日開催と2回の小さな祭り、そして7月にはフルスペックでの”浦佐の夏の風物詩と言える「生ビール&鮎まつり」の開催”でスタッフにも無理のない開催を目指したシーズンでした。人出集計での4,870人は対前年比で減となりましたが、びしゃもん通りの通行止めを行わない、会館敷地内で完結し地域に負担をかけない形で実施することができました。

しかし、スタッフの高齢化・人手不足の波に抗うことは難しく、来年度は同規模・同形式での生ビール&鮎まつりは難しくなってきています。来年度の開催内容をどうするのか、早急な議論が必要となっています。

(賑わい事業へ支出 100千円)



○ 「浦佐のフットパス」の取り組みについて

フットパス事業は、人口減少が続く地域の経済的活性化も視野に入れた総合事業として 2016 年度から、南魚沼市の支援(パイロット事業)を受けるなか勉強会・講演会の開催から本格的に始まりました。(2015 年【風が吹けばプロジェクト】構想からはじまる)

本年度は営業ベースでのフットパスを目指す中、春に「関東・東北ミニ集い in 浦佐」を開催し、フットパス先進地からの誘客を図り、2 日間延べ 31 名の方からご参加いただきました。泊まりを兼ねたことから地域での滞在時間が長くなり、ゆっくりと魚沼の田舎町に浸っていただくことができました。

また、11 月には新潟市の旅行会社主催のツアー受け入れを行い、15 名の方から旧三国街道コースを歩いていただきました。

参加者アンケートなどから木道やステップなどコース整備に課題があり、比較的規模の大きな工事の必要性を感じています。

足元の観光資源として、或いは地域学習の教材として多くの可能性を秘めていることから、今後の活用も含めコースとガイドの充実を図りながら事業を進めます。



フットパス事業における主な実施事業として

- ・引き続いでコース整備とコース管理作業を行う(草刈り作業、休憩場所周辺の除伐・草刈り整備)
- ・SNS を活用したフットパスの普及、イベントの引き受け、視察等の積極的引き受けなど
- ・新たなコースの開設に向けた取り組みを進める 現地踏査、コース検討、魅力の発見と掘り起こし
- ・コースガイドの増員と内容の充実、先進地視察 (2025.10.18~19 全国の集い参加予定)

日常的なコース整備は欠かさず

(事業費総支出額 782 千円)

(詳細は【浦佐のフットパス】ホームページ・ブログ参照)



2024. 11. 4 トラベルマスターズ様
商業ベースになるか？



○ 「浦佐の T シャツ」作りと販売事業

“浦佐のアピール”と地域の活性化、などの創出を目的に、「生ビール＆鮎まつり」でデザインされたスタッフ T シャツをベースに、一般販売用に製作・販売しています。製作数は 200 着 (M・L サイズ)で販売単価は 1,700 円/着、地区内数店舗にて販売中です。 (2019 年度から販売 残枚数 38 着)



4 多面的機能支払交付金事業

平成 26 年度から始まった「多面的機能支払事業」は、それまでの “減反政策” に代わる新たな国(農水省)による交付金事業として法制化もされ、「農振地域」と周辺を含む様々な農業環境の維持と整備を目的として創設されたものです。事業を推進するための組織は南魚沼市内 12 地区に設置され、浦佐地域では「浦佐地域づくり協議会」として “こうした交付金事業も取り込むなかで地域づくりを進める” とし、2014 年より本事業を取り組んでいます。(独立会計-別組織として活動し、事務局は共有しています)

2024 年度の全体事業費(繰越金含む)は 1,644 万円規模となって、農地と農用施設、景観を維持するための草刈作業や道水路の保守・農道の補修作業、景観事業等々、地域の農業者が主体となった活動を行っています。

また、小学生や高校生の田植え・稲刈り授業の受け入れも行っています (小学生は販売まで体験)



長寿命化事業では水路の補修工事など中心に業者委託工事を進めていて、五箇・川原町・鰐島地区などでは老朽化・不等沈下した水路の改修工事など行い事業効果を上げています。

浦佐地域広域協定 会長 井口義夫 200.95ha

5 浦佐公民館の活動

【浦佐公民館】としてスタートし 6 年目、公民館活動を進めています。

主な実施事業

- ・委託事業 (生け花教室 12 回、菊づくり教室 6 回)
- ・地域の歴史にふれる遠足 5/11 21 名参加
- ・トレッキング「健康づくり登山」6/8 11 名
- ・三十三番観音様巡り 8/25 17 名
- ・ボッチャ大会 7/13 53 名
- ・グラウンドゴルフ大会 大和中テニスコート脇 10/12 42 名
- ・そば打ち講習会 11/16 11 名
- ・しめ縄づくり教室 12/7 14 名
- ・ボッチャ大会+百人一首 子どもかるた大会 1/11 37 名
- ・冬山トレッキング in 坂戸山 3/22 中止



6 その他事業

○ 花いっぱい・緑化運動

浦佐地域づくり協議会と地域の皆さんにより、大和・魚沼地域の玄関口である浦佐駅東側地域の広場と県道及び市道植栽枠の花壇作りに取組み、植栽区域も年を重ねるごとに充実した内容となっています。八色の森公園での各種イベントの再開などから地域への来場者も増加傾向になって、道路からの景観対策などもあって行政区や個人・地域からの参加で植栽マスや緑地などきれいになってきました。花壇づくりや花植え、草取りなど管理をして頂いた皆さんには大変ご苦労様でした。感謝を申し上げたいと思います。

また、市には“潤いあるまちづくり”などから植栽された街路樹など、景観に配慮した適正な整枝・剪定、或いは植え替えなど計画的に進めることを望みたいと思います。

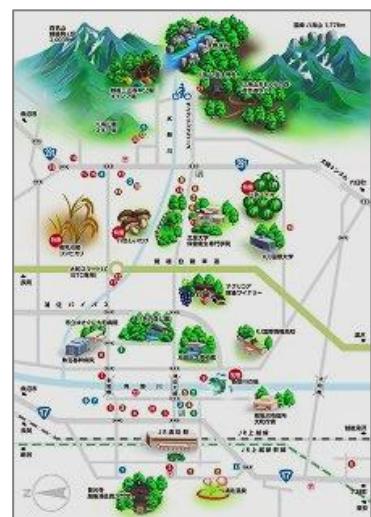


○ Web 版 料飲店マップ

魚沼基幹病院の開院、大型店の出店、また関連事業所などの充実・活性化するなか、魚野川両岸地域での人の動きも着実に多くなっていると感じます。

浦佐料飲店組合の協力を得ながら作られた「Web 版料飲店マップ」は、浦佐と東地域の料飲店の様々な情報を一括して見ることができ、スマホやタブレットから簡単にお店を検索することができます。

「料飲店マップ」ではメニュー・写真の内容更新や新規の加入などメンテナンス作業を行っています。マップは浦佐料飲店組合と共同事業として、南魚沼市のパイロット事業補助金を頂くなかで 2015 年度から始まりました。“料飲店マップ”で検索してみませんか！



○ 浦佐の「川まち計画」について

市建設課また国交省「信濃川河川事務所」などの行政機関を含め、勉強会・相談会、現地確認など行いながら「浦佐の川まち計画」構想の実現に向けた取り組みが進められています。今年度の活動については残念ながら具体的な活動に結び付ける行動ができませんでしたが、地域の景観形成と併せ魚沼漁協浦佐分会を中心地域と川を結びつける取り組みを進めています。



浦佐は“川のまち”でもあります

また、例年浦佐小学校6年生を対象に行っていた鮭のつかみ取りは、学校とサケの遡上の日程が合わず、行うことができませんでした。

○ 浦佐の都市計画について

南魚沼市「都市計画マスターplan」は2016年3月に更新され、概ね20年後の姿を見据えつつ実現可能な10年間の都市づくりに関する基本的な方針が示され、「都市計画」についても見直しの方向で進んできました。2023年3月、新潟県にて「南魚沼市都市計画道路の変更」が決定され、今年度は浦佐地域の公共事業についての打合せや懇談会を関係する市・県と行いました。今後、停滞していた河川改修や危険な交差点・踏切改良など、具体的な公共要望と工事が前進することを期待します。



12.25 県・市と地域で協働のまちづくりを目指します

○ 雪国おくにじまん会館1階「びしゃもん市」と「西山Cafe」の取り組みについて

2023年4月にオープンした(一社)浦佐まちづくり機構が運営する店舗「びしゃもん市」と「西山Cafe」ですが、経営的に安定した収支を計上することが出来ず、残念ながら6月末で営業休止となっています。

数回の理事会開催の中で今後の利用について話し合われ、店舗業務を委託する方向で希望者を募集し、数名の内覧希望者と面談を行いました。現在はそのうちの2名の方と店舗の利活用について話し合っています。(25年4月現在一部活用開始)

また、浦佐まちづくり機構では新たな地域事業が創出出来ないか、現在検討を重ねているところです。



○ 協議会事務局体制の強化について

1) 地域おこし協力隊が着任 3 年目になりました！

現在、各協議会には地区センター事務長(集落支援員1名)が配置されています。各地域づくり協議会は南魚沼市が誕生して間もなく、行財政改革などから"行政との距離感"が物理的にも遠のことなども心配されることもある、むしろ積極的に地域の特性に合わせ"地域で出来ることは地域で"と、市内12地区へ新たな自治組織である協議会を設立しました。

協議会組織は、基本市の交付金により運営されますが、地域事情に合わせた事業展開も期待され、将来的な協議会の発展的な組織・活動強化と独自運営化も遠望されていました。浦佐地域も「少子高齢化」や「人口減少」・「周辺部の空洞化」、また都市計画と公共事業など多くの課題が山積していると感じています。

行政だけに頼ることなく、地域課題の解決に向けた取り組みをいつそう進めたいと考えています。こうした取り組みを強力に進めるために事務局に必要となる新たなるマンパワーとして、一昨年の11月に着任した「地域おこし協力隊」の活動が3年目を迎えた。

今年度前半は引き続き 1 階店舗の業務にあたりながら他所の協力隊員との交流や地域で開催された研修などに参加し、後半からはフットパス事業のツアー企画やガイド養成のためのマニュアル作りに取り組んでいます。



× 干